

2023年度 流域圏担い手づくり事例集について

'23.9.15 豊田市矢作川研究所 洲崎燈子

【これまでの事例集づくりについて】

- ・ 中山間地の活性化を進め、過疎化や少子高齢化問題を解決に導く糸口として、持続可能な流域作りに関わる102団体に取材を行い、2013～2016年度にかけて4冊の「山村再生担い手作り事例集」を、2017～2018年度にかけて2冊の「流域圏担い手づくり事例集」を作成した。
- ・ 2019～20年度は事例集づくりを休止し、流域圏懇談会10年誌を作成。
- ・ 2021年度は学童保育木造化プロジェクト、2022年度は錦二丁目都市の木質化プロジェクトを取材対象とし、都市を巻き込んだ流域圏づくりを支える複数の方を取材して、その立体像を描く「流域圏担い手づくり事例集」を作成した。
- ・ 2017～19年度および2023年度には、事例集づくりでできた人のつながりを深め、広めることをめざして「事例集交流会」を開催した。

事例集のあゆみ

発行年度	タイトル	調査団体数	備考
2013(H25)年度	山村再生担い手づくり事例集	21団体(山:21)	
2014(H26)年度	山村再生担い手づくり事例集Ⅱ	21団体 (山:17、川:2、海:2)	川・海の活動団体を取材先に加える
2015(H27)年度	山村再生担い手づくり事例集Ⅲ	22団体 (山:18、川:2、海:2)	
2016(H28)年度	山村再生担い手づくり事例集 その後いかがお過ごしですか？ プロジェクト	17団体(山:17)	2013年度の取材先を再取材
2017(H29)年度	流域圏担い手づくり事例集	19団体 (山:12、川:6、海:1)	山村再生担い手づくり事例集交流会開催 (於・根羽村、2017.4.15) 冊子名を流域圏担い手づくり事例集に移行
2018(H30)年度	流域圏担い手づくり事例集Ⅱ	19団体 (山:11、川:7、海:1)	流域圏担い手づくり事例集交流会2018開催 (於・佐久島、2018.4.14)
2019(R1)年度	(流域圏懇談会10年誌作成・ 担い手づくり事例集の振り返り)	—	流域圏担い手づくり事例集交流会2019開催 (於・岡崎市、2019.6.22)
2020(R2)年度			
2021(R3)年度	流域圏担い手づくり事例集Ⅲ	1プロジェクト (個人:6、施設:3)	取材対象:学童保育木造化プロジェクト
2022(R4)年度	流域圏担い手づくり事例集Ⅳ	1プロジェクト (個人:15)	取材対象:錦二丁目都市の木質化プロジェクト
2023(R5)年度	流域圏担い手づくり事例集Ⅴ (予定)	1プロジェクト	流域圏担い手づくり事例集交流会2023開催 (於・豊田市、2023.5.19)

【2023年度の事例集案】

・引き続き、一つのプロジェクト（テーマ）に関わる人々・団体を取材対象とする。今年度は伊勢湾、三河湾の海の豊かさについて取り上げる。

あなた
マイクロプラスチック問題の
原因を作っていませんか？

マイクロプラスチック問題は、いまや、地球温暖化、気候変動に続く新たな脅威に及びます。環境問題として懸念されています。マイクロプラスチックは、不適当なプラスチック製品の廃棄はもちろん、水田に撒かれる化学肥料を溶かすことで、土壌汚染の原因となり、生態系に与えているマイクロプラスチック、合成繊維などから発生し、それが河川や海に流れ出ると、海洋生態系に大きな影響を与えていることが分かってきています。本講座では、日本の大学環境情報学部教授の千葉賢氏をお招きし、マイクロプラスチックの伊勢湾での広がりやその実態や新しい発見についてお話ししていきます。

講師 **千葉 賢 氏**
西三河大学環境情報学部 教授

令和3年 **7月31日(土)** 15:00~17:00
開催方法 ZOOMによるオンライン開催 定員500名

申込方法
①氏名 ②メールアドレス ③お住まいの市区町村を必ず明記のうえお申込み下さい。
お申込みいただいた方に講座で使用するZoomのURLをお知らせします。
申込期限: 7月21日(水) 17:00まで

参加無料

主催 矢作川流域圏懇談会 (代表者: 佐々木 謙二) 事務局: 伊勢湾 事務局 電話: 0532-46-8107

矢作川流域圏懇談会 公開講座

豊かな海の栄養源
～きれいな海は豊かな海か?～

みなさんはどんな海がきれいだと思いますか？
きれいな海は生き物が育ちやすいと思いますか？

田舎で農作物が豊かに育つには、窒素やリン肥料が必要のように、海においても多くの生き物が豊かに育つには、窒素やリンなどの栄養分が必要です。ところが近年、海の栄養分がだんだん減っています。このため、アサリやハマグリが育たなくなり、皆さんが大好きな潮干狩りができない海岸が日本の各地で多くなっています。今回は改正を行った瀬戸内海の成船みちをご紹介します。果たして、きれいな海は豊かな海なのでしょうか？

本講座では、京都大学名誉教授の藤原建紀氏をお招きし、瀬戸内海の成船みちについてお話しいただきます。この機会に是非、海の栄養不足について考えてみてください。

講師 **藤原 建紀 氏**
京都大学名誉教授

令和4年 **8月20日(土)** 15:00~17:00
開催方法 ZOOMによるオンライン開催 定員500名 参加無料
土木学会CPD認定プログラム

申込方法
①氏名 ②メールアドレス ③お住まいの市区町村を必ず明記のうえお申込みください。
お申込みいただいた方に講座で使用するZoomのURLをお知らせします。
申込期限: 8月18日(水) 17:00まで
専用フォームURL https://us06wweb.zoom.us/join/register?WN_SDN_EE1961F5KMWEGRCHUZW

主催 矢作川流域圏懇談会 (代表者: 佐々木 謙二) 事務局: 伊勢湾 事務局 電話: 0532-46-8107
後援 公益社団法人 土木学会中部支部

・「大きな人口を抱える都市自体も流域圏の「いいところ」で成り立っている存在なのではないか、そのことを意識して山を見なければならぬのだろう。山の管理だけでなく、海もそうだ。上流の都市（だけではないが）が経済的で便利・快適、効率的な暮らしをするための代償として、大量のプラスチックごみを受け入れることとなる。誰が本当にそれを負担すべきなのだろうか。」(流域圏担い手づくり事例集Ⅳ、p40)

・取材対象者候補

- 愛知県水産試験場
- 三重県水産研究所
- 三重県鳥羽市立海の博物館 館長 平賀大蔵さん
- 鳥羽市長 中村欣一郎さん

(鳥羽の海に伊勢湾の豊かさと、ごみの漂着など環境問題が集約されていることを認識。協働による環境改善と観光振興の両立をめざす)

鳥羽市水産研究所

(藻類に関する研究、海域の観測、海洋教育への協力、多分野連携による産業振興等に取り組む)

・「はじめに」は海部会の青木座長にご執筆頂く。